



学級の仕事の大切さ

副校長 下田 卓

2月になり、まだまだ寒い日が続いています。平成27年度もあと2か月になりました。しかし、日中の時間が1日に1分ずつ長くなって、夜が1分ずつ短くなっています。そうやって、確実に少しずつ春になっていきます。

先日、神奈川県公立小学校教頭会研究大会のため県立音楽堂へ行ってきました。そこでそれぞれ他都市の「学校の特色ある教育活動」や「学び高め合う子どもを育てる学校づくり」というテーマで話し合いをもちました。教育課程に関する課題、学校の環境整備や教職員の専門性に関する課題、子供の発達に関する課題等活発な意見が交わされました。学習以外の活動についての話になったとき「担任が学校生活の中で意識して大切にしたいものは何ですか」と聞かれたときに私は、「学級の仕事」と考え、次のようなことを話しました。

学校生活での重要な活動の一つに学級の仕事があります。係活動をはじめ、当番活動的なものや、臨時に行う仕事まで、様々な形があります。

その内容は、奉仕的であったり、創造性豊かなものであったりします。また、誰かがしなければならぬから行う活動や自ら希望して行う活動など、様々な活動のきっかけがあります。どれも、学級という集団生活を維持するために大事なことであり、学級を向上させるための大切な要件になります。

子供たちは、学級の仕事をどのように受け止め、どのように行い、そこから何を得ていくのでしょうか。その様々な経験や体験が生きた教育として、大人になったときにさらに生きてくると思います。

子供の取り組む姿勢は、学校生活を楽しく感じさせたり、つまらないと思わせたりする心の成長にかかわります。自分で努力しようと思えることは成長を促します。手を抜いてやり過ぎていっても、「それでもいいや」という甘いとらえが、自分の成長のチャンスをのがします。

周りの人の接し方も、大切な動機付けになります。「そう、おもしろそうな活動だね。」「楽しみだね。」「みんなが助けてくれるよ。」「誰かがやらなければいけないことだよ。」これらの声が子供の気持ちを揺さぶり、動かすきっかけになります。保護者や友達や教師のこの声が大切なのです。

そして、活動が終わった後の大事なことは、教師が子供たちを認めるということです。「がんばってやりとげたね。」「じょうずにできたね。」「また今度はもっとうまくいくよ。」などの励ましや認める声が、次へのやる気を起こさせます。

やる気を持ち続け、努力を惜しまない子を育てるという教育の大きな目標が学級での仕事に含まれていると思うのです。

学校生活の中で、さまざまな子供の意欲（やる気、根気、勇気）を育てていくことができるよう、支援していきたいです。

笹野台小学校合い言葉

元気いっぱい

やさしさいっぱい

笑顔いっぱい

心かがやく笹小キッズ

笹野台小Web

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sasanodai/>

検索

横浜市立笹野台小学校